

ペット同行避難の受け入れ体制の整備について考える

前提:避難してくる住民等の中には、必ず一定の割合でペットと「同行避難*」してくる人がいます

*同行避難：発災初期に人間と動物の双方の被害を避けるために動物を連れて行う避難行動のこと

*同伴避難：避難所での人とペットが同居すること ☆分離避難：一旦人間と動物を分けて避難すること

① ペット対策の必要性を考える

Q. なぜ同行避難が必要か？

A. 飼養者だけでなく、被災社会全体が安心安全に避難するために役立つから

⇒ 同行避難できないと… 避難をためらう、置き去りにする、家に戻る、野に放つ ⇒ 二次災害

Q. なぜ同行避難への対策が必要か？

A. 適切な準備がないと、動物にまつわるトラブルが発生する可能性が高いから

⇒ 主な問題：悪臭、騒音、汚染、アレルギー体質への不安

② 地域の状況を把握する

・市内の動物飼育状況の実態	畜犬登録数
・避難所の状況	利用可能な場所
・受入対象動物	犬・猫・小鳥・小動物

③ 運営者側ができること (案)

比較的容易

場所の提供

居住場所を区別する … 人間と動物を分離 or ペット連れとペット無しの分離

受入場所	ペット用スペースの選定	… 雨風を避ける、逸走を防ぐ、衛生管理と監視が容易
	広さやケージ等の配置	… 可能な限り動物種ごとに分離
	車中避難	… 動物の居場所として適するが、ヒトには非推奨

飼主と行政との橋渡し

- ・情報収集
 - ・対象動物と受入数(一旦全収容) ☆人に危害を与える状況の動物は不可
 - ・受入時に動物情報の収集(個体識別と飼主情報) ⇒行政へ情報提供
 - ・困りごとがないか

- ・ルール提案
 - 飼主会発足 … 飼主同士の共助を提案 ⇒ 個々の負担軽減
 - 動物の世話 工サやり・無駄吠え対応・糞尿や抜け毛対策・周辺清掃

☆ 避難所開設運営者の方々にお願いしたいこと

- *「身体障がい者補助犬(盲導犬など)」は避難所建物内で同伴できるよう便宜を図る必要があります
- *受入れできない場合、代替移動先を紹介出来るまでは安全な場所に一時待機できるようにします
- *放浪犬を発見した場合「安全が確保できれば」保護係留します (日進市は野良犬ゼロ=全て飼い犬)



飼育スペースの検討(屋外)

人の居住に向かなくても、風雨がしのげて活用可能な場所

例 ・駐輪場 ・グラウンドの一角 ・渡り廊下 ・器具庫やカーポート ・建物の軒下

その他 : サッカーゴール、渡り廊下、遊具や鉄棒、フェンス、キャンプ用のミニテント

飼育スペースの検討(屋内)

条件 ○避難者の生活動線と交わらない ○鳴き声や臭いが届きにくい ○飼主がそばで待機でき目が届く

例 ・裏口の風除室 ・階段下や踊り場 ・居住区画にならない部屋

・・・汚染防止のため、屋内の場合ブルーシート敷きで養生してケージ飼育を原則とする